

令和三年十二月号

神の旅

佐怒賀正美

冬に入る知恵の輪郭フラクタル
をちこちの疫鬼をさとし神の旅
神の旅たまには地下を潜らむと
ささがにの糸や冬鳥のこゑ彩ふ
紅葉散る涙も祖からたまはりぬ

令和三年十一月号

ひかがみ

佐怒賀正美

パ
ス
ワ
ー
ド
何
に
し
や
う
か
穴
惑
ひ

ひ
か
が
み
に
回
り
く
る
秋
晴
の
余
熱

照
れ
ず
に
並
ぶ
秋
光
の
ガ
ス
タ
ン
ク

ミ
サ
イ
ル
去
り
鯛
も
平
目
も
十
三
夜

体
感
的
レ
ー
ダ
ー
に
入
る
野
分
か
な

令和三年十月号

鬼

佐怒賀正美

人類の祖へ拔手してゆく銀河

生きゆくに移す重心いわし雲

月見団子遙けき冥王フルートにも捧ぐ

自販機に鬼のフィギュアや秋の風

月の客待つやテラスに小さき椅子

令和三年九月号

名月

佐怒賀正美

吟遊詩人西瓜の縞を愛でながら
秋の虹タンゴの街へバスでゆく
名月の上がれ上がれとダリの髭
世界中から昇るたましひ天の川
生身魂パクチーサラダ山盛りに

令和三年七・八月号

虚

佐怒賀正美

紫陽花に屈みて猫を呼びあへる

レゴの城につくる寝床や窓に虹

義父橋本喜典の遺歌集完成す

遺歌集を供へ青紫陽花の窓辺

遠景は虚かごきぶり飛翔せず

夕立も根無し仲間や都下に生く

令和三年六月号

水都

佐怒賀正美

麦秋や疫禍に負けぬパンの笛
空豆や水都の夜景ふかまりぬ
月ウサギ火星オコジヨや夏の夢
ほどほどの風が生きたり花菖蒲
天球を舐めたる夏の魔人かな

令和三年五月号

春の夢

佐怒賀正美

ものの芽や天が吸ひ上げゆく光
小さくなつて蟻さんの糞粒なり

ミャンマーを憂ふ

竜天に登りて見ゆる蜂起銃殺
エジプトのミイラ引越す春の夜

※四月三日夜、二十二体のファラオたちのミイラが新博物館に移された。

春の夢 薔薇 星雲に濾過されて

令和三年三月号

夜の鳥

佐怒賀正美

天使のはしご寒明けをつのる風
学寮に鳩部屋ありき下萌ゆる
夜の鳥の百の気配にまむし草
灯せるは髭の船長ひひなの夜
黄梅や焼け落ちし幼年期の平屋

令和三年一・二月号

落葉

佐怒賀正美

吟遊といふに落葉を崖まで踏む

地球まだ知られぬ星か磯焚火

恐竜も巨神も遊ぶ子の柚子湯

落葉払ひ脳の海馬の香りけり

追悼・有馬朗人先生

落葉から世界へ遊ぶ詩想かな